

2025 年 6 月 30 日

－発電所の煙突から、命が羽ばたく－

新仙台火力発電所で希少猛禽類「ハヤブサ」のひなが今年も誕生・巣立ち
～11 年にわたる継続的な保全活動が、今年も確かな成果に～

当社は、「東北電力グループ環境方針」で定める「環境行動四原則」の一つに、「豊かな自然環境を守り、共生します。」を掲げ、地域の自然と共生する持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

その象徴的な取り組みの一つが、新仙台火力発電所（宮城県仙台市宮城野区）における、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類に指定されている希少猛禽類「ハヤブサ」の生育環境保全活動です。発電所の煙突に人工巣を設置し、野生のハヤブサが安全に繁殖できる環境を整えるこの取り組みは、2015 年から始めたもので、今年で 11 年目を迎えました。

今年5月には、3 羽のひなが誕生し、6 月 12 日に全羽の巣立ちを確認しました。これは、2020 年から 6 年連続の繁殖成功であり、継続的な保全活動が今年も確かな成果となったことを表しています。

ハヤブサは、かつて都市化や環境汚染により個体数が減少し、現在も保護が必要とされている猛禽類です。国内ではさまざまな保護活動が行われていますが、企業による 10 年以上にわたる継続的な生育環境保全の取り組みは数少なく、当社の活動は其中でも継続的な成果を上げている事例の一つです。

今後も、発電所の運営における生物多様性への影響を最小限に抑えるとともに、自然と調和した持続可能な社会の実現に向けて、積極的に取り組んでまいります。

【新仙台火力発電所 運営企画グループ 担当者のコメント】

今年も繁殖が成功するのかとドキドキしていましたが、無事に巣立ってくれて、発電所員一同とても嬉しく思うとともに、ほっとしています。

ハヤブサの環境保全活動を通じて、発電所と自然が共に生きるということを日々実感しています。

「猛禽類」と聞くと怖いイメージがあるかもしれませんが、よく見るとかわいいハヤブサを、ぜひ皆さんに見ていただきたいです。

以 上

（別紙）ハヤブサの様子



【親鳥と卵】



【餌やりの様子】